

介護保険 特別会計決算
包括的支援の取組

Q 特に「ケアマネージャー」への支援や、取り巻く現状は。

A 地域包括支援センター（社協）では、高齢者が住み慣れた地域で暮らすことができるよう多職種^①と



Q 現在の人間ドックと併進して脳ドックを実施する考えはないか。

A 県内でも人間ドックとの併進ドックとして実施している市町村はありますが、予算上、補助額2万円を据え置く場合に自己負担額が増えてしまい、人間ドックの受診率が下がってしまう恐れがあります。過去に府内でも検討した経緯がありましたが、「特定健診」と「がん検診」を併せて受診することで、脳疾患を起因とする生活习惯病の予防に効果があると捉えているので、引き続きこれらの併用受診に取り組んでいきます。

特定検診の令和4年度の受診率は約41%と上がっていますが、国の目標す60%には達していません。

瀬川病院 豊院長

新型コロナウィルス感染症の影響
「2類相当」最終年度における
健康・医療

国民健康保険 特別会計決算



特定健診のご案内
小川町HP

Q 現在の受診率向上につなげる方策等は。

A 40歳から74歳の被保険者が対象で「内臓脂肪型肥満」に着目し予防することを目的としています。受診率向上の取組として、ポスター掲示・のぼり旗の設置をはじめ、町公式X（旧ツイッター）の活用や、職員が啓発用ポロシャツ・ジャンパーを着用するなどして努めています。

また「ナツジ行動理論」を応用し、対象者に即したアドバイスが付された勧奨ハガキを送付し、受診を促しています。令和5年10月31日時点の受診率は11%となっています。



Q さらなる受診率向上につなげる方策等は。

A 40歳から74歳の被保険者が対象で「内臓脂肪型肥満」に着目し予防することを目的としています。受診率向上の取組として、ポスター掲示・のぼり旗の設置をはじめ、町公式X（旧ツイッター）の活用や、職員が啓発用ポロシャツ・ジャンパーを着用するなどして努めています。



ポロシャツ・ジャンパーを着用しているのは健康福祉課に限りません。クールビズ・ウォームビズにもつながる取組で啓発に努めています。

受給者の利便性向上へ
重度心身障害者医療費の現物給付

その他の条例改正

AQ 条例改正に至った経緯等は。令和4年度に埼玉県が、県の医師会・歯科医師会・薬剤師会と、県内医療機関を受診した場合、「現物給付^②」を行うこととする協定を結びました。町としても、この流れに伴って、現物給付の実施の可能性について検討を続けてきました。町全体の事業を精査する中で、令和6年度からの実施に向けて改正をお願いするものです。

AQ 当町における対象者数や負担額等は。令和4年度の実績として、対象者は573人で医療費の合計は4966万円となっています。また、今条例改正に伴う財政負担の見込みは、年間で給付額890万円・審査支払い手数料70万円となり、合計で960万円程度の増額を予定しています。

Q 不納欠損額は減少したが、収入未済額は増加している。背景等は。

A 精神疾患や認知症、経済的困難等の課題を抱えている場合は、解決まで時間をするケースも多く、役場内の他部署・医療機関等との連携が必要な事案が多くなっています。

Q 令和4年度は前年度比で10%近く増えてしまっているが、背景等は。

A 一般会計の個人町民税と同様に「コロナ禍における給付金の影響」で、所得の増加に伴い課税額も増えてしまつたために、納付が

困難となつた事案が影響しているものと考えています。また、元来、国民健康保険の構造的な課題として、世帯収入や加入者の年齢構成等、財政基盤は脆弱であり、資力のない世帯も増え中で収入未済額が増加したものと捉えています。